

東京国立近代美術館は、学校と連携して**スクールプログラム**を行っています。**図画工作・美術**はもちろん、教科横断的に学校ごとの利用目的に合わせて、子どもたちが**探究的な鑑賞**を体験できることを目指しています。

たとえば、対話によって子どもたちの声を引き出す**ギャラリートーク**。子どもたちは本物の作品を前にして、自分の目によく観察し、さまざまなことを考え、それを話したり友達の意見を聞いたりします。ギャラリートークを行うガイドスタッフ(解説ボランティア)や教育担当の学芸員は、作品についての知識を教えるよりも、**子ども自身が造形的な見方・考え方を**働かせ、作品の特徴をつかみ取り、イメージを広げることを大切にしています。

こうした体験は、**学習指導要領**でも触れられている**主体的・対話的で深い学び**をもたらします。当館では、セルフガイドなどの教材も、子ども自身が発見し考える体験を念頭に置いて設計しています。ICT環境が充実した昨今、教室でも活用できる**オンライン教材**も用意しています。

鑑賞するのは、重要文化財を含む**所蔵作品**です。所蔵作品は、十分に作品研究がなされていることや、将来にわたって繰り返し見ることができることから、鑑賞教育に特に適しているといえるでしょう。作品や鑑賞方法の選択にあたっては、子どもたちの**発達の特性**や**学習のねらい**を考慮します。

スクールプログラムは固定的なものではありません。先生からの相談、アイデア、ご意見も歓迎します。子どもたちの様子をご報告いただけることも貴重です。私たちは先生方と常に連携をとり、美術館での体験をよりよいものにしたいと考えています。



こんな作品を鑑賞します

スクールプログラムを行う所蔵作品展「MOMATコレクション」には、重要文化財18点を含む13,000点以上から選ばれた約200点が、4階から2階の3フロアにわたって展示されています。年に数回展示替えがあり、国内外の作家による**絵画(日本画・洋画)**、**彫刻**、**版画**、**水彩・素描**、**写真**、**映像**、**工芸**など美術の各分野にわたる様々な表現と出会うことができます。



このページの作品と「**#キーワード**」は、鑑賞素材BOXで詳しく紹介されています。
鑑賞素材BOX <https://box.artmuseums.go.jp/>



岸田劉生《道路と土手と堀(切通之写生)》
1915年 重要文化財

#構図 #色 #写実 #風景 #環境
#郷土 #時代 #文化遺産



上村松園《母子》
1934年 重要文化財

#構図 #色 #人物
#生活 #生命 #伝統
#時代 #ジェンダー
#文化遺産

パウル・クレー《花ひらく木をめぐる抽象》
1925年

#形 #色 #構図 #抽象 #諸外国
#生命 #自然 #理数 #音楽



高村光太郎《手》
1918年頃

#形 #人物 #象徴
#身体 #エネルギー
#アイデンティティ

